

厚生福祉

時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社
昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
購読料金 税抜月額4,100円
本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。
©時事通信社2018
◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
kousei-dokusha@jiji.com

目次

連載 第4回	2
地域包括ケアの確立から深化まで 社会保障・税一体改革	
スコープ	7
再雇用格差の是正に期待	
中央省庁ニュース	8
移住、新規就労者を30万人増=24年度 目標、地方創生で基本方針案/救急搬送、 1歳児が最多=転落に注意/高齢就労者 増で年金見直し=減額、課税めぐり議論 へ	
進言(山形県健康福祉部長)	9
特集	10
平成30年度「特別養護老人ホーム開設時 実態調査」の結果 約9割の施設が介護職員確保に苦戦	
事件・事故・裁判	15
ニュース	16
18年版「子供・若者」「高齢社会」白書	
私たちの工夫	17
ニュースフラッシュ	18
子ども居場所づくり支援/保育所新設に 学校、公園活用/5町共同で病児保育/ 高齢者見守りにスマホ/健診受診で商品 交換/2年限定でがん検診無償化/「シ ニアライフ案内士」を養成/重粒子線が ん治療費を助成 ほか	

萌黄色の車

この春、我が家の西側の窓から見える駐車場から萌黄色の車が消えた。車の持ち主は私たちの法人が持っている学校の学生で、近くに下宿していた無事卒業したのである。

この学校では、可能な限り在宅で生活を継続できよう、生活に関連の強い専門職として介護福祉士、作業療法士、言語聴覚士のコースを持っている。しかし、残念ながら言語聴覚士は日本の社会でまだ十分な認知を得ているとは言い難い。

私たちは、オーストラリアで言語聴覚士が栄養士とともに嚥下に取り組んでいる姿を見て言語聴覚士の養成を始めたのだが、県内唯一の学科であっても定員を満たしたことはない。これは自慢で

社会福祉法人新生会
名誉理事 長・石原美智子



きることでなく、我々の営業力の低きでもあるのだが……。実際に高校回りなどをすると、教員は言語聴覚士のことをほとんど知らない。

最後まで自分の口から食事を食べるというQOLの高い生活の確保のため、高齢社会には欠かせない専門職である。赤ちゃんの嚥下から子供、老人の言語障がいなど支援の範囲は広い。こんなに大切な部門の専門家の活躍が社会の常識になつてもらわないと、老後も心配である。

萌黄色の車の主は、外務省のキャリアで海外勤務の経験も持つ。こうした前歴を捨てて、この言語聴覚学科に入学してきた。どんな夢を抱いて入学したのか、彼女は多くを語らなかつたが、この

春、大学病院に就職して旅立っていった。彼女がかつての社会での経験を生かして立派な言語聴覚士の一人となり、現場のみでなく、言語聴覚士の社会的役割の大切さを広く伝える役割も担つてほしいと願っている。

実際、我々の現場や学校に所属している言語聴覚士も、小中高校に出かけて言語聴覚士の仕事について紹介するなど地道な努力をしている。急いでもすぐに結果はついてこないかもしれないが、必ず理解される時がくるはずだ。

最近の若い人の中には、単に生活の安定のみを願うのではなく、自分を信じて社会の常識を乗り越えて挑戦しようとする人も多くなってきたように思う。そんな若者に高齢社会は担われていくのだろう。そこに夢を託して、私たちはきょうもコツコツとした歩みを続けている。